

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
やる気いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 輝く山内西の子	官民一体型学校「武雄花まる学園」「コミュニティ・スクール」(学校運営協議会制度)を活用した地域の学校づくり

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
① 知的な学校・・・知的好奇心の育成						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
学校運営	○教職員の資質向上	協働的に学び合う教職員集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> 全職員で授業づくりの「ステップ3」を目指す。 互いの指導方法や指導技術を共有化できる体制を構築し、学級経営及び授業力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ステップ1・2・3」のチェックリストを活用した自己評価を定期的に行い、授業改善の意識の継続を図る。 校内研究会を月1, 2回、学力向上・研究推進委員会を定期的で開催し、活用方向上に関する研究を進める。 全教員が仮説に基づく研究授業を行い、事前(模擬授業研修)、事後(授業研究会)の研究の充実を図る。 全職員で指導方法や指導技術について学び合う「先生やる気タイム」を月1回行い、協働意識を高める。 各職員の効果的な指導方法や指導技術、教育情報など職員が気軽に話し合える雰囲気作りを努め、教育技術の共有化を図る。 	まなび 学力向上・研究推進	小野池田山宮原桑原田中小林古川川久保
教育活動	●学力の向上	習得した知識・技能を生活や学習で活用する力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストで全学年80%以上の正答率を目指す。 県学習状況調査12月調査の全教科で、学力向上対策評価シートの本校到達目標を達成する(4年生は県平均以上)。 家庭学習の定着を図り、各学年の目標時間行うことができる児童の割合を80%以上に上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況調査やCRT、単元テストの結果から、学校課題を把握し、児童の実態に合った指導方法、指導形態を考え、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 週3回朝の時間に「はなまるタイム」を行い、学習意欲の向上を図る。 放課後「やる気タイム」では、職員・保護者・地域ボランティアと協力し、補充学習や発展学習を充実させる。 全校で統一した自主学習に取り組み、児童の意欲を喚起する。 「家庭学習の手引き」を全家庭に配布し、家庭への啓発を行う。 「学力向上だより」を定期的に保護者に配布する。 	まなび 学力向上・研究推進	小野池田山宮原桑原田中小林古川川久保
教育活動	○ICT利活用教育の推進	ICT機器の効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 教育の情報化に関する実態調査において達成率100%にする。 全学年プログラミング学習を6回以上実施し、推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々、デジタル教科書を活用した授業を行う。 電子黒板やタブレット端末を使った研修会を開き、職員のICT機器活用の幅を広げる。 年間を見通したプログラミング学習の取組を行う。 ICT推進リーダーがタブレットを持ち帰っての学習の実施状況を確認し、活用を推進する。 	推進 リーダー 校内研究	田中小野池田
② 居心地のいい学校・・・自己肯定感の育成						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●心の教育	一人一人がよりよい生活を目指す指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 生活振り返り週間(西っ子よい子のくらしカード)の自己評価で、できている児童を90%以上を目指す。 児童一人一人が落ち着いて生活し、「学校が楽しい」と答える児童90%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 低学年は、毎日振り返りを行い、保護者と協力して言葉かけを行う。 中・高学年は、「生活振り返り週間」に、自己評価を行い、意識付けを行う。 職員連絡会で気になる児童についての情報の共有をする。情報の共有からケース会議につなげたり、SCや関係機関等へつなげたりする。 要支援児童に配慮した支援方法について、研修したり学習指導や教材を工夫したりする。 「ふれあいタイム」の時間で、異学年交流の機会を設ける。 	なかま くらし	小林井手川久保池田知古川平川成富松尾ふ黒木久保
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめを見逃さない環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> 「やまうち合言葉」の「優しいことばを周りの人」を意識して行動できる児童(自己評価)90%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師も、「さん、くん」をつけて名前を呼ぶ。 「教育相談」「いじめアンケート」「先生あのおね」を実施し、状況把握に努める。 毎週の職員連絡会で「気になる児童」の情報交換をし共通理解を図る。 「平和を考える週間」「人権週間」を設け、全クラスで人権意識の育成を目指した取り組みを行う。 	なかま くらし 教育相談	小林井手川久保池田知古川平川成富松尾ふ黒木久保一ノ瀬
教育活動	○立腰教育の推進	立腰三原則の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 立腰がきちんとできる児童(自己評価)90%を目指す。 気持ちのよい返事・あいさつ・言葉遣い・話を聞く姿勢・はきもの揃えを意識して行動できる児童(自己評価)85%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書の時間から姿勢に気を付けさせ、放送に合わせて指導を行う。 授業前後は立腰をし、子どもたち同士で声を掛け合わせる。 昼休み終了後、掃除の準備ができた児童から立腰をし、1分前には全児童が立腰の姿勢で開始の合図を待てるように指導を行う。 掃除の振り返りの時間を設け、次につなげるようにする。 「生活振り返り」を行い、年2回集計し、全体の様子を把握して指導する。 環境委員会と連携しながら、トイレのスリッパ並べ、掃除道具の後片付けをチェックし、放送で称賛する。 上級生を中心として挨拶の指導を行い、下級生に広げていく。 登校班や委員会別で挨拶運動を年2回し、全校朝会や学校便りで称賛し、意欲付けをする。 履物揃えが習慣化できるように指導を行う。 	くらし	平川成富松尾ふ黒木久保
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務・教育活動の効率化	<ul style="list-style-type: none"> 定時退勤日の取組を確実に進行。 	<ul style="list-style-type: none"> 金曜日を定時退勤日とし、16時以降の行事を設定しない。 定時退勤日のPTA行事を設定しない。(青バトも含む) 定時退勤日に不測の残業が必要の際は、管理職に申請する。 各担当が必ず業務改革を行うよう業績評価表に目標を挙げる。 級外の職員が、環境の整備等の担任を支える取組を行う。 	効率化	原口松本桑原白濱
③ 元気な学校・・・挑戦心の育成						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌(部)	担当者
教育活動	●健康・体力づくり	体力向上を目指す意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 健康的な生活を意識させ、早寝早起き朝ごはんの取り組み90%以上を目指す。 全ての学年で、スポーツチャレンジに1種目以上取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「西っ子よいこのくらしのカード」「生活振り返りカード」等を用い、子供や保護者に早寝・早起き・朝ごはんの意識付けを図る。 なわとびや間中、コーナー掲示を行う等して、児童の意識を高め、自主的な練習を促す。 昼休みに全校でスポーツチャレンジに取り組む場を設定する。 班登校を継続し、自力登校率90%以上になるよう、入学式やPTA総会等で保護者に自力登校を呼びかける。 清潔検査を月曜日に行い、結果を放送して意識を高める。 手洗い、うがい、歯磨きを放送等で呼びかけ、習慣化を図る。 	からだ	田中今村一ノ瀬松永松尾知
学校運営	○地域の学校づくり	「コミュニティ・スクール」及び「官民一体型学校」としての開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学校として、学校運営協議会の提言を受けての学校運営を行う。 民間学習塾「はなまる学習会」と組んで地域人材を活用し、開かれた学校づくりのアンケートで90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会で校長の考える学校経営を説明し、地域の提言や地域人材からの提案を具現化する。 年間の地域人材活用リストを作成し、計画的に協力を要請する。 花丸タイム実施にあたり、保護者の当番表を作成し、すべての保護者に協力を依頼する。 公民館と連携して、花まるタイムのボランティアや授業で協力してもらえ地域人材を確保し、活動の定着を図る。 	渉外	原口松本桑原白濱

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目